

地域課題の解決や 商品開発を促進

8月31日、県立広島大学への研究開発助成事業の成果発表会を行いました。

保健・医療・福祉の向上や産業振興などに関する研究開発を、同大学と連携して行うこの事業。その成果を市内へ還元することにより、本市の振興や地域経済の活性化を図ることを目的としています。研究開発の課題は、市から提案するものと、市内の事業所と協力して商品化や実用化をめざすものがあります。

発表会では、昨年度採択した研究課題5件について、その成果が示されました。



▲研究成果について発表する県立広島大学の金井教授

「砂浜歩行が心身機能に与える影響について」という研究課題では、砂浜でのウォーキングをテーマとし、佐木島にある4カ所の砂浜を比較実験しました。その結果、砂質の違いからストレス発散や運動に適している砂浜があることが確認されました。今後、佐木島の砂浜ウォーキングを観光資源とする可能性が見いだされました。

また、研究課題「三原市産タコの市場調査と加工食品開発」では、粉末状にしたタコの栄養成分と消費者ニーズを分析。栄養成分の点では、コレステロール、中性脂肪、血糖を減少させる効果があることが証明されました。また、たこわさふりかけや、たこ茶なども開発され、今後、新たな市場開拓に期待しています。

今年度も5つの研究課題を採択し、現在研究開発が行われています。

国際交流推進協議会を 設立

海外都市との交流・友好親善や多様な観光・交流の活発化を図るため、8月21日、国際交流推進協議会を設立しました。

設立総会には、商工会議所、青年会議所、観光協会、医師会、県立広島大学など11の団体が参加。会長に五藤市長、副会長に商工会議所の伏見会頭、



▲国際交流に対して意見を述べる各団体の代表者

臨空商工会の梅本会長が選ばれました。委員からは、「目的を持った滞在型観光の促進」や「小・中学生など若い人材の育成」といった意見が出されました。今後は協議会内に、調査研究を行う連絡調整会を設けるほか、海外都市との交流や友好親善に向けた情報収集、訪日外国人観光の推進、受け入れ体制の整備などを協議してまいります。

広報みはらを 電子ブック化

先月から、広報みはらを電子ブック化し、ホームページ上で公開しています。導入したシステムで変換が可能なので、平成22年5月号から最新版までの広報

誌について、電子ブック化しています。電子ブックとは、ホームページ上で広報誌を本のような状態で見ることができ、PDFに対応しています。今後は、ホームページへ広報誌のPDF版に加えて、電子ブック版の二つを掲載してまいります。



▲電子ブック化した広報みはら9月号。画面の操作で、本のようにめくって見ることができます。

総務課
0848・676007